



2期生 (経済学部/経済学科)

俵石 俊哉

おしゃべりなオタク!



01 生まれと育ち

兄の背中を追いかけて

大阪吹田市で、父親・母親・2歳年上の兄と私の4人家族の一家に生まれ、3歳の頃から、祖父母の介護をするため現在住んでいる京都府長岡京市に引っ越した。引っ越してからは、兄が小学1年生になる時にサッカーを始めたことをきっかけに、私もサッカーを始めた。その頃に父親より「一度始めたことは、簡単にやめるな」と言われたことがきっかけで、一度始めたことは最後までやり抜くことが私の価値観となった。また、大学に入るまでの15年間ずっと兄の背中を追いかけて生活を送っていた。兄には嫌がられていたが、サッカー以外に勉強や趣味などあらゆることを真似してきた。そのため、中学を卒業するまでのほとんどは自分が選択したことでなく、「兄がやっているから」が物事を始めるきっかけで、卒業までは、これといったこともなく平凡に過ごしていた。初めて自分で選択したことは、大学に入り勉強がしたいという理由で入った京都産業大学附属高等学校だけだった。



02 大学になってからのこと

新しい自分を求めて

大学に入ってからの目的は、高校受験の時とは変わり「大企業に入りたい」であった。そのため私の大学生活の目標は、4年間で卒業するために必要な単位数を取ることであった。目標を達成するための勉強をしていた。この頃は、単なる人生の通過点だと捉えて日々過ごしてきた。そんな中、大学1年生の11月には、レンタルショップでアルバイトを始めた。アルバイトを始めたきっかけは、2つある。1つ目は、大学に通うために借りている奨学金の返済資金を集めることだ。もう1つは、自分の趣味に使うための資金を集めることだ。趣味は、アニメ・音楽鑑賞などだ。主な使い道は、アニメのDVD・CDを買うために使用した。次第に、大学・アルバイトをするだけの生活が達成感の無い生活なのだと感じ始めた。そう思い始めた時にある団体と出会った。それが、このむすびわざコーポプログラムである。入ろうと思ったきっかけは、長期有給インターンシップを体験できることに興味を持ったからだ。そして、説明会・エントリーシート・東田教授による面接を受けたことで、これなら自分の求めている達成感を感じられると思い参加した。実際は、東田教授が用意していた企画のプレゼンテーション大会・スピーチ大会などに振り回されることが多くて毎日がしんどい思っていた。しかし成長を感じ取れたため、充実した学習ができていいると思える生活だった。



03 長期有給インターンシップ

1日が最も長いと感じた日々

大学3年次に私は、むすびわざコーポプログラムの最大のイベントである長期有給インターンシップに参加した。長期有給インターンシップで、業務を行うまでは自分の好きな仕事がしたいという思いと、好きなことしかやってきていなかったため仕事は楽しいものだと思っていた。本当にその私の中の仕事の定義があっているかを確かめるためにインターンシップに参加した。

長期有給インターンシップ中に任せられた業務は、自分が苦手なことやできないことがほとんどであった。私は、その時に、上司に怒られたり、他の働いている人から仕事ができない人だと思われたくないと感じ

04 これからのこと

後悔先に立たず

た。そこで、私はあることを考えた。「自分のできないことをやらないようにするためにはどうすればいいのか」「早く仕事が終わらないか」と思い業務を行ってきた。すると、仕事がますます嫌になり、嫌々インターンシップに取り組むようになった。だが、このむすびわざコーポプログラムに参加した理由は、達成感が欲しいと思っていたことと、将来就職するにあたっての実験的な体験のためだったことを思い出した。その時にインターンシップの目的を達成することは、できなくてもいいがここで投げ出してしまうのは、自分の価値観に反すると感じた。また、やるなら出来ないなりに自分がかっこよく働いていた爪痕を残してやるという意気込みで臨んだ。インターンシップをやり遂げたことによりすべてのことに向き合う大切さを感じたことが私の財産だ。

私は、これからの人生では、後悔を減らしたいと感じている。それは今までの短い人生の中で後悔ばかりしてきたと思っているからである。自分がやりたくないことは後でやればいいと考えて結局やらない。そして後悔することや、計画を立てずに、行動してしまっただけのために後々にしわ寄せがくるが多々あった。これの多くが大学内でのレポート課題である。期限前に出すた



05 大事にしたいこと

自分の武器をつくりたい

これから大事にしたいことは、探求心をもち続けることである。今の私は、固定観念が強い人だと言われることが多い。それは、長期有給インターンシップでも、仕事を楽しめるものだと決めて挑んでいたように、私は物事に勝手なイメージを決めつけ、それが正しいと思いついてしまっただけで、そのために後悔した経験が、数え切れないほど多くある。このことより、調べる機会が少なくなっている。本当の知識を身につけるチャンスを見逃さないために、これから探求心を自分の武器にしたいと考えている。

大学を意識した高校受験をする

大学へ行くための高校を選び京都産業大学附属高等学校へ行くことになった。

15歳

プロフィール

私は、好きなこととことん熱中することが生きがいとなっている。好きなことに対しては、自分が納得のいくまで、追求し続けることが私の一番の楽しみである。私の趣味は、サッカー観戦・アニメ鑑賞・音楽鑑賞である。これらのことは、私が小学生の時からずっと変わらず自分がリラックスするためには欠かせないものだ。これからの人生でもこれらを追求することが私のポリシーだ。

自我の誕生

今まで、服などが兄のお下がりを使うことが多かったが、自分のものが欲しいという思いが芽生えた。

8歳

サッカーに出会う

兄が始めたサッカーの練習を見に行ったことをきっかけにサッカーを始める。

4歳

先輩・後輩からのメッセージ

関本 龍翼 (3期生)

満川 拓麻 (1期生)

彼は、素直になるのが苦手な時折、仲間との間に軋轢を生んでしまう。しかし、心の底から仲間を思い、些細なことにも積極的、かつ、熱心に取り組むことができる人である。

俵石先輩は私にとって、正にお兄さんのような存在です。厳しい言葉の中に秘められた後輩への愛や的確なアドバイスに気づいた時、ほんと良い先輩だなあと感じました！最近はお調子がいいんですけど合った頃の厳しい口調の頃から尊敬です！